

## 平成21年度終了プロジェクト研究評価【総括評価】

研究課題名	達成目標・達成状況	評価	コメント
<p>教育・研究組織における評価に関する総合的研究</p> <p>[平成17～21年度]</p>	<p>[達成目標]</p> <p>初等中等教育段階の諸学校を中心に、学校の自主性・自律性の確立を指向しながら、成果評価のためのプログラム開発を進め、学校改善に結びつく学校評価の体系構築のための基礎資料を得る。</p> <p>[達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5年間の長期にわたるプロジェクトであったが、前期3年間は学校の第三者評価のプログラム開発などを行い、後期2年間は学校評価の制度化などの動きも踏まえて具体的な評価手法の試行等を行うなど、前期3年の研究と後期2年の研究とに区分して研究活動が進められた。</li> <li>○ 具体的には、前期3年間には、授業・カリキュラム評価や研究機関等主体型の学校の第三者評価のプログラム開発、後期2年間には学校関係者評価のためのプログラム開発や学校関係者評価の全国的実態に関する調査等が進められた。</li> <li>○ このうち後期2年の研究活動は、研究協力者として教育長や多数の校長、指導主事に加え、保護者、地域住民などの参画を得ることができ、学校現場の実情に対応した学校関係者評価の有り様について開発研究を進め、「学校診断方式」のフォーマット構築を進めた。また、全国市区町村教育委員会を対象とした調査を実施し、学校関係者評価の全国的な動向が解明された。</li> </ul>	<p>やや高い成果を出した〔B〕</p>	<p>学校関係者評価に焦点を当てた全国調査を初めて行うとともに、「学校診断方式」による評価手法を試行するなど、学校評価の質の向上を促す上で貴重なデータが得られた。また、文部科学省における学校の第三者評価のガイドライン策定に向けた検討に当たって本調査研究で用いた評価手法が紹介され、議論の参考にされた。</p> <p>一方で、社会状況の変化を踏まえた研究課題の一貫性・整合性をどのように維持していくかなどの面で困難な課題が生じた。</p> <p>今後は、開発した評価手法など、研究で得られた知見を教育現場等へわかりやすく発信していくことが期待される。</p>

※評価については、以下の5段階により行った。

S：非常に高い成果を出した、A：高い成果を出した、B：やや高い成果を出した、C：やや低い成果だった、D：低い成果だった

研究課題名	達成目標・達成状況	評価	コメント
<p>都市の教育政策と教育行政の在り方に関する調査研究</p> <p>[平成19～21年度]</p>	<p>[達成目標]</p> <p>調査対象自治体の教育政策を取り巻く社会・経済的、政治的環境条件の変化をも加味した分析をすることで、都市自治体において効果的な教育改革施策の企画・立案の際に参照可能な知見を得る。</p> <p>[達成状況]</p> <p>○ 都市自治体の教育行政改革動向を地方分権改革や市町村合併の影響の関連において訪問調査等により検討を行った。また教育政策立案にも有用となるような基本的な資料・データの収集整理を行った。</p> <p>○ さらに、他分野の研究者の知見を生かして、一般的な都市政策・都市行政の中に教育を位置づけて考えていくための視点を提供した。</p> <p>○ 分権改革以降各自自治体に求められる、主体性ある自治体教育政策立案の具体的な姿を検証することができた。</p>	<p>やや高い成果を出した〔B〕</p>	<p>教育行政に関する研究における新たな視点として都市自治体の教育政策・教育行政の現状に着目し、全国的・網羅的なデータの収集や関係者インタビューを行ったことは評価できる。</p> <p>その一方で、個別の問題設定の相互関係、研究の全体像、全体を通じた総括が必ずしも十分には明確にされておらず、収集したデータについてもさらなる分析が望まれる。</p> <p>今後、研究全体の総括、さらなるデータの蓄積・分析を進めるとともに、研究成果をわかりやすく発信していくことが期待される。</p>

※評価については、以下の5段階により行った。

S：非常に高い成果を出した、A：高い成果を出した、B：やや高い成果を出した、C：やや低い成果だった、D：低い成果だった

研究課題名	達成目標・達成状況	評価	コメント
<p>いじめ・暴力防止に関する指導の在り方についての調査研究</p> <p>[平成19～21年度]</p>	<p>[達成目標]</p> <p>協力校における取組の評価を行い、成功事例、基礎データ及び教師向け校内研修用資料からなる「いじめ・暴力防止指導資料」を作成する。</p> <p>[達成状況]</p> <p>○ 本調査研究開始以前から実施していた、小中学校を対象とした継続的な調査結果も踏まえ、いじめ等の生徒指導上の諸問題に対する未然防止に取り組む際の実施方法（学校現場における教職員間の共通理解の形成の仕方やマネジメントサイクルを意識した、いわゆるP. E. A. C. E. メソッドに基づいた取組方法）や、個々の段階における留意点等について、協力校における実践を踏まえた裏付けを得た。</p> <p>○ また、上記の成果をまとめた学校向けの指導資料を完成させることができた。</p>	<p>高い成果を出した</p> <p>[A]</p>	<p>サンプル数が少ないものの、追跡調査の結果に基づき具体的でわかりやすい指導資料を作成し、全国の学校に配布するとともに当研究所HPで公表するなど、研究成果の学校現場への還元という点で、着実に有用性に富むものとなっている。</p> <p>今後は、当該資料が学校現場でより多く活用されるよう普及を図るとともに、実際の活用状況や効果について検証を行い、資料の改善を含め、今回の研究成果を継承・発展させていくことが期待される。</p>

※評価については、以下の5段階により行った。

S：非常に高い成果を出した、A：高い成果を出した、B：やや高い成果を出した、C：やや低い成果だった、D：低い成果だった

研究課題名	達成目標・達成状況	評価	コメント
<p>言語力の向上をめざす生涯にわたる読書教育に関する調査研究</p> <p>[平成19～21年度]</p>	<p>[達成目標]</p> <p>小中学生、大学生、成人に対する読書活動と言語力の調査、中学校レベルでの読書教育の実践を行う地域への訪問調査の結果をまとめるとともに、調査協力地域を対象として、言語力向上につながる各種の読書教育のプログラム(ブックトークなど)を児童・生徒、および教員・司書、地域の成人学習者を対象として実践し、その成果をまとめる。</p> <p>[達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学生、中学生、大学生、成人を対象とした読書に関する基本調査を実施し、読書活動と言語力の関係を明らかにした多数の実証的資料を得て多数の視点からの分析を行った。</li> <li>○ また、読書教育について、地域、民間団体、学校等の実践事例を明らかにするとともに、読書指導者の実践プログラムや職場における読書プログラムの開発などのモデルプログラムを実施するとともに、理論的・専門的な研究成果も得ている。</li> <li>○ 大学生や成人調査の結果からは、大学や地域図書館、学校図書館に関するデータを得て、政策的提言を行った。</li> </ul>	<p>高い成果を出した</p> <p>[A]</p>	<p>小中学生から成人までを対象とした諸調査に基づき、読書習慣や家庭環境等と読解力の関係などについて、経験上予測された内容を数値によって改めて裏付け、総合的に明らかにしている。</p> <p>本調査研究の成果については、平成22年8月の当研究所シンポジウムでも報告されたが、今後ともわかりやすい形で研究成果を普及するとともに、読書教育プログラムの成果などについてさらに分析を深め、教育現場で実際に活用できるような知見の提示に努めることが期待される。</p>

※評価については、以下の5段階により行った。

S：非常に高い成果を出した、A：高い成果を出した、B：やや高い成果を出した、C：やや低い成果だった、D：低い成果だった

研究課題名	達成目標・達成状況	評価	コメント
<p>学校におけるキャリア教育に関する総合的研究—児童生徒の社会的自立に求められる資質・能力を育むカリキュラムの在り方について—</p> <p>[平成19～21年度]</p>	<p>[達成目標]</p> <p>児童生徒の社会的自立に求められる資質・能力を育むカリキュラムモデルやそれらに関する教材を作成し、研究協力校における試行的授業を行うとともに、全国の小中学校においてキャリア教育を推進する上で役立つ手引き書を作成する。</p> <p>[達成状況]</p> <p>○ 教育センターや教育事務所向け参考資料「学校におけるキャリア教育支援に向けて」及びパンフレット「学校のキャリア教育を支援しましょう」を作成し、全国の教育センターや教育事務所に配布した。</p> <p>〔 生徒指導研究センターの事業との調整を行い、同センターで学校向けパンフレットを作成・配布し、本研究では、学校におけるキャリア教育を支援する教育センターや教育事務所向けの指導用資料を作成・配布することとした。 〕</p> <p>○ 中間報告書「諸外国におけるキャリア教育の実践」および最終報告書「諸外国におけるキャリア教育」を作成した。</p>	<p>やや高い成果を出した〔B〕</p>	<p>我が国におけるキャリア教育の現状と課題を整理した上で、キャリア教育推進のための教育センター及び教育事務所向け資料を作成するとともに、諸外国のキャリア教育の現状についても整理をしたことは、有用な成果として評価できる。</p> <p>他方、我が国のキャリア教育に関するカリキュラムモデル及びそれに関する教材の作成や、諸外国のキャリア教育の推進体制を含め、我が国におけるキャリア教育の推進を促す観点からの分析などが必ずしも十分でなかった。</p> <p>今後は、国際比較についての事項別の比較など、わかりやすい形での成果を発信するとともに、学校が負担感なくキャリア教育に取り組めるような知見の提供に努めることが期待される。</p>

※評価については、以下の5段階により行った。

S：非常に高い成果を出した、A：高い成果を出した、B：やや高い成果を出した、C：やや低い成果だった、D：低い成果だった